

2012年度春夏公開授業一覧表

分野	講座番号	講座名	講師氏名	定員	受講料
公開授業	7001	歴史と文化(日本の古代史)	衣川 仁	5	¥6,000
	7002	歴史と文化(世界遺産が語る地理と歴史)	豊田 哲也	3	¥6,000
	7003	自然と技術(ゲノムと発生のテクノロジー)	真壁 和裕	5	¥6,000
	7004	歴史と文化(考古学概論Ⅰ)	中村 豊	5	¥6,000
	7005	生活と社会(社会学のパースペクティブ)	矢部 拓也	5	¥6,000
	7006	自然と技術(教養としての統計)	川野 卓二	5	¥6,000
	7007	人間と生命(自己発見の心理学)	香川 順子	5	¥6,000
	7008	自然と技術(数理の世界)	桑原 類史	5	¥6,000
	7009	生活と社会(ボランティア論)	樫田 美雄	5	¥6,000

- ※ 必ず、ガイドブックP47の公開授業Q&Aを熟読ください。
- ※ 申込受付期間:3/27当日必着
- ※ 入金受付期間:4月10日(火)~4月17日(火)
- ※ 申込用紙はガイドブック中とじ(水色用紙)をご利用ください。
- ※ 電話・FAXでのお申し込みは受け付けておりません。
- ※ 定員を超えた場合は、抽選とさせていただきます。
- ※ 定員以内でも、学生の申込み者が多数になり万一、受講できなくなった場合は速やかに連絡いたします。
- ※ 受講手続き後の受講料の払い戻しや授業の変更は出来ません。

分野	講座番号	講座名	時間	曜日	1	2	3	4	5	6
公開授業	7001	歴史と文化(日本の古代史)	8:40~10:10	月	4/16	4/23	5/2	5/7	5/14	5/21
	7002	歴史と文化(世界遺産が語る地理と歴史)	8:40~10:10	月	4/16	4/23	5/2	5/7	5/14	5/21
	7003	自然と技術(ゲノムと発生のテクノロジー)	8:40~10:10	月	4/16	4/23	5/2	5/7	5/14	5/21
	7004	歴史と文化(考古学概論Ⅰ)	16:20~17:50	月	4/16	4/23	5/2	5/7	5/14	5/21
	7005	生活と社会(社会学のパースペクティブ)	16:20~17:50	火	4/17	4/24	5/1	5/8	5/15	5/22
	7006	自然と技術(教養としての統計)	10:25~11:55	水	4/11	4/18	4/25	5/9	5/16	5/23
	7007	人間と生命(自己発見の心理学)	10:25~11:55	木	4/12	4/19	4/26	5/10	5/17	5/24
	7008	自然と技術(数理の世界)	10:25~11:55	木	4/12	4/19	4/26	5/10	5/17	5/24
	7009	生活と社会(ボランティア論)	12:50~14:20	木	4/12	4/19	4/26	5/10	5/17	5/24

- ※ 講義室は、授業開始の直前に正式に決定します。講座初日に実践センター窓口に講義室名を掲示しますので、各自確認のうえ移動してください。
- ※ 公開しております授業回数を超えた授業の休講案内は開放実践センターではお答えしておりません。各自、下記のホームページ若しくは大学掲示板でご確認ください。
 PC版: <http://www.g-edu.tokushima-u.ac.jp/ceducom/lectinfo.html>
 携帯版: <http://www.g-edu.tokushima-u.ac.jp/ceducom/mobile.cgi>

1～6回目までを公開授業としています。

講座番号7001

開講学期	前期	曜日・講時	月1～2	時間割番号	0010401
科目分野	教養科目群・歴史と文化[Category of General Education Subjects・History and Culture]				
科目名	日本の古代史[Ancient Japanese History]				
担当教員	衣川 仁 [Hitoshi Kinugawa]				
単位数	2	対象学生・年次			
平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『教養科目・人文科学分野・日本史 / 日本の古代史』					
授業の目的 歴史といえ、たとえ日本の歴史であったとしても、自分にとって遠い昔の無関係な話として受け取られがちです。確かにそうですが、その遠い昔から存在し、現在に影響を与えているかも知れないものは結構多いのです。そういった要素を見つけることで、歴史はぐっと身近なものになるでしょう。また、史料を細かく読み込むことで、今までは感じる暇もなかった当時の人々の思いにまでたどりつくことができます。それは覚えた年号からは分からない「生きた歴史」です。そこに行き着くには、柔軟に考えることが必要です。歴史は考える学問だということ踏まえ、その考え方を知ってもらうこと、これがこの授業の目的です。					
授業の概要 日本の古代史に関わる重要なトピックを概説し、その歴史的な特質を考えます。時期としては7世紀から12世紀あたりまでを扱いますが、トピックの歴史的な特質を考えるため、必ずしも「通史」的な説明にはなっていません。それぞれの問題を考える際には、多様な史料・資料に基づきながら、政治的な思惑や時代背景、さらには社会・文化といった要素も視野に入れたいと思います。					
キーワード 天皇, 律令, 仏教, 怨霊					
到達目標 1. 日本古代の歴史に潜む問題を抽出し、それに対する考え方を学ぶ。また、その背後にある歴史的な特質を理解する。					
授業の計画 1. ガイダンス 2. 「日本」はどのように作られたか 3. 誰が「壬申の乱」を起こしたのか 4. 誰が長屋王を殺したのか 5. 行基は何をやったのか 6. なぜ怨霊は生まれたのか 7. 「薬子の変」の首謀者は誰か 8. 道真の怨霊を作ったのは誰か 9. ケガレとは何か 10. 受領が土をつかむのはなぜか 11. 「叔父子」「御涙」をどうみるか 12. 仏教の力の源は何か 13. 民衆はものを言ったか 14. 「日本」はどう変わったか 15. 試験 16. 総括授業					
教科書 教科書は使用せず、プリント等を配布する予定です。参考書等は授業の中で適宜紹介します。					
参考書					
成績評価の方法 期末試験を中心に評価しますが、出席やコメント・小テストなど、平素の授業への取り組みも勘案します。					
再試験の有無 無					
受講者へのメッセージ 歴史は考える学問だといった様に、実際に考えながら受講して欲しいと思います。ですから、予習や復習も必要です。					
WEB ページ					
連絡先 (Eメールアドレス, オフィスアワー)		衣川仁(総合科学部1号館2N02), kinugawa@ias.tokushima-u.ac.jp, 月曜10時30分～12時			
備考					

1～6回目までを公開授業としています。

講座番号7002

開講学期	前期	曜日・講時	月1～2	時間割番号	0010402
科目分野	教養科目群・歴史と文化[Category of General Education Subjects・History and Culture]				
授業題目名	世界遺産が語る地理と歴史[Discover the World Heritage: Geography and History]				
担当教員	豊田 哲也 [Tetsuya Toyoda]				
単位数	2	対象学生・年次			
平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『教養科目・社会科学分野・地理学 / 世界遺産が語る地理と歴史』					
授業の目的 中学・高校ではだれもが地図や年表に親しんだはずである。地理学は地図に描かれた空間的な広がりを視野に、それぞれの地域に固有な特徴はなにか、地域と地域はどのように結びついているかを考える。歴史学は年表に記された時間的な流れに注目し、さまざまな事象がいかなる背景のもとに生じたか、それら事象がどう関連しあっているかを考える。両者はいわば世界という大きな織物の横糸と縦糸にあたる。この授業ではユネスコが選定する世界遺産を題材とし、地理と歴史の2つの視点から地域環境や人類史における意義を考察しつつ、大きな織物の一部としてその魅力を探る。受験知識やトリビアな雑学にとどまらず、現代のグローバル社会に生きる人間として知っておくべき教養を深め、世界の見方や考え方を身につけてほしい。					
授業の概要 授業では毎回異なるテーマで自然遺産や文化遺産を取り上げる。ビデオを見ながらその概要を学び、自然遺産を生んだ地形のメカニズムや歴史遺産が果たした文明史的な意義を解説する。また、関連する情報の提供をウェブページ上でおこなう(下記 URL を参照)。					
キーワード 世界遺産, 地理学, 地形学, 歴史学, 文明史					
到達目標 1. 世界遺産を題材に地理や歴史について幅広い知識教養を身につける。					
授業の計画 1. アブ・シンベル神殿(エジプト) エジプト文明は外来河川ナイルの賜物 2. グランド・キャニオン国立公園(アメリカ) 地球の歴史が見える谷 3. ペルセポリス(イラン) 世界帝国ペルシアとアレクサンドロスの戦い 4. トリーア(ドイツ) ローマ帝国が築いたドイツ最古の計画都市 5. ラサのポタラ宮殿(中国) チベット仏教の形成とダライ・ラマの系譜 6. イスタンブール歴史地区(トルコ) アジアとヨーロッパを結ぶ文明の十字路 7. ヴェネチアとその潟(イタリア) 地中海がつなぐ東西交易の展開 8. ゴアの教会と修道院(インド) ポルトガルのアジア進出とザビエルの足跡 9. パナマ旧市街(パナマ) スペインの新大陸制覇と運河建設の夢 10. ゴレ島(セネガル) 西アフリカの奴隷貿易基地 11. グリニッジ(イギリス) 大英帝国が定めた本初子午線 12. ウィーン歴史地区(オーストリア) ハプスブルク帝国の栄光と苦悩 13. ハワイ諸島(アメリカ) ホットスポットがつくった世界最大の火山島 14. ラパ・ヌイ国立公園(チリ) イースター島の巨石文明が減びるとき 15. アウシュヴィッツ(ポーランド) ホロコーストの消しがたい記憶 16. 授業の総括					
教科書 最新世界史図説 タペストリー: 帝国書院, 2011, ISBN:4807159275 新詳高等地図: 帝国書院, 2011, ISBN:4807159801 教科書は高校の世界史資料や地理教材として用いられているものである。すでに持っている場合は新たに購入する必要はない。また、地図帳の種類は異なっても高校で使用したものでかまわない。					
参考書 下記 URL のウェブサイトに掲載しているほか、各回の授業時間に紹介する。					
教科書・参考書に関する補足情報 毎回、次週の資料プリントを事前に配布する。授業のホームページも参照しながら、予習しておくことが望ましい。授業後の復習のため、毎週チェックシート(A5 用紙1枚分の小レポート)を課すほか、自分で選択したテーマで期末レポートを執筆することを推奨する。					
成績評価の方法 期間中に実施する小テスト及びレポート(80%)に、授業への取り組み(20%)を加味する。					
再試験の有無 おこなわない。					
受講者へのメッセージ 高校での授業や受験科目で地理または世界史を履修・選択したかどうかは受講の必要条件ではない。この授業の単位数は、教員免許取得(中学校・社会, 高校・地歴のための「教科に関する科目」)に算入できる。					
WEB ページ		http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/region/heritage/			

連絡先 (Eメールアドレス, オフィスアワー)	豊田哲也(総合科学部 1 号館 1S25,656-7154,toyoda@ias.tokushima-u.ac.jp), toyoda@ias.tokushima-u.ac.jp, 水曜 12:00-13:00
備考	1. 授業の 1～ 6 回目は, 大学開放実践センターの公開授業として受講可能.

1～6回目までを公開授業としています。

講座番号7003

開講学期	前期	曜日・講時	月1～2	時間割番号	0010702
科目分野	教養科目群・自然と技術[Category of General Education Subjects・Science and Technology]				
授業題目	ゲノムと発生のテクノロジー[Genomic and Genetic Technology]				
担当教員	真壁 和裕 [Kazuhiro Makabe]				
単位数	2	対象学生・年次			
平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目『教養科目・自然科学分野・生物学 / ゲノムと発生のテクノロジー』					
授業の目的 専門課程でマイクロ系の生物学を学ぼうとする学生を対象に、現代生物学で中心的な役割を果たすゲノムサイエンスと発生活工学に関わる分子生物学の基本的な技術について、使用する器具の名称からその原理と背景、さらに実際の実験のスキームまでを解説し、実習や研究を行うために必要な基本的知識を身につけることを目的とする。					
授業の概要 現代生物学は日進月歩の勢いで進んでおり、学生は多くの場合その成果を聴くだけで消化不良を起こしかねず、その成果が得られた実験の方法の理解まで辿り着くことは容易ではない。そして一方、実習や卒業研究さらには大学院での研究の場においては、ひとつひとつの技術に関する詳しい背景説明が与えられないままに実験の手を動かしていかなければならないことも現実には起こりうる。そこで学生にとって実習をより実りあるものにするために、この講義では個々の研究成果に注目するのではなく、成果を得るために広く用いられるテクノロジーの原理や実際の方法の概略を解説することで上記の問題の狭間を埋める。					
キーワード 発生、バイオテクノロジー、遺伝子、ゲノム					
到達目標 1. 学部や大学院での生物学実験を行うに際して知っておきたい技術の原理・背景・スキームを理解すること。					
授業の計画 1. 核酸の構造と性質 2. 遺伝子工学と酵素 3. 宿主とベクター 4. 核酸の抽出(ゲノム DNA・RNA) 5. 遺伝子ライブラリー 6. ハイブリダイゼーション 7. DNA シークエンシング 8. モノクローナル抗体 9. 細胞への遺伝子導入 10. 個体への遺伝子導入(トランスジェニック) 11. 発生遺伝学 12. 細胞工学と発生活工学 13. ゲノムテクノロジー1 14. ゲノムテクノロジー2 15. 学期末試験 16. 総括授業					
教科書 「バイオテクノロジーテキストシリーズ遺伝子工学」IBS 出版(2,625 円)					
参考書 参考書「ゲノム工学の基礎」東京同人(4,100 円) 参考書「遺伝子工学集中マスター」羊土社(3,800 円)					
成績評価の方法 随時行う小テストおよび学期末の試験の成績による。					
再試験の有無 無					
受講者へのメッセージ 休んだり遅刻したりしないように、またしっかりノートをとって復習をする習慣をつけるようにしてください。					
WEB ページ					
連絡先 (Eメールアドレス、オフィスアワー) 真壁 和裕					
備考					

開講学期	前期	曜日・講時	月9～10	時間割番号	0010407
科目分野	教養科目群・歴史と文化[Category of General Education Subjects・History and Culture]				
授業題目名	考古学概論 I [Outline of Archeology I]				
担当教員	中村 豊 [Yutaka Nakamura]				
単位数	2	対象学生・年次			
平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『教養科目・人文科学分野・考古学 / 考古学概論 I』					
授業の目的					
考古学は、人類の遺した物質から歴史を復原する学問である。物質は文字資料とは異なって、そのままでは黙して語らない。この「沈黙の史料」からいかにして歴史を復原するのか、この点を理解することを第1の目的とし、次いで、その実践としての研究のあゆみを概観する。より興味を深めるために、その実践例として、「縄文から弥生へ」「邪馬台国の時代」「徳島の考古学」について講義し、大学構内遺跡の発掘についてもかきまみる。					
授業の概要					
考古学とは何か、なぜ考古学を学ぶのか。まずはじめに考古学の方法論を概説し、現代社会とのかかわりのなかで、考古学に取り組む意味・姿勢について考える。次に、文字のない時代における年代の決定方法や、食生活の復原方法、自然環境とのかかわりなど、関連諸科学との境界領域について講義する。以上をふまえた上で、日本考古学が、その成立から今日にいたるまで、どのように発展してきたのかを講義する。日本考古学の問題意識や理論が、時代背景とどのように関わってきたのか、これからどうあるべきかについて考察したい。なお、理解度を高めるために、パワーポイント等映像を適宜用いる予定である。					
キーワード					
日本考古学, 方法論, 考古学史, 歴史意識, 関連諸科学					
関連科目					
『東アジア考古学概論 I [Outline of East Asian Archaeology 1]』(1.0), 『東アジア考古学概論 II [Outline of East Asian Archaeology 2]』(0.5), 『埋もれた文化遺産 I [Buried Cultural Heritage 1]』(0.5), 『埋もれた文化遺産 II [Buried Cultural Heritage 2]』(0.5)					
到達目標					
1. 考古学の方法を理解する。 2. 考古学と関連諸科学との関わりを理解する。 3. 日本考古学のあゆみと、その背後にある時代背景との関わりを理解する。					
授業の計画					
1. 考古学の方法 1 考古学とは何か、なぜ考古学を学ぶのか 2. 考古学の方法 2 型式学と層位学 3. 考古学と関連諸科学 1 年代決定法 1 4. 考古学と関連諸科学 2 年代決定法 2 5. 考古学と関連書科学 2 自然環境と人間のかかわり 6. 日本考古学のあゆみ 1 近代考古学の成立と展開 7. 日本考古学のあゆみ 2 編年学派の登場 8. 日本考古学のあゆみ 3 戦中・戦後の考古学と、これからの考古学 9. 日本考古学のあゆみ 4 考古学における不正行為 10. 日本考古学の実践例 1 縄文から弥生へ 11. 日本考古学の実践例 2 邪馬台国の時代 12. 徳島の遺跡 13. 青石の考古学 14. 徳島大学構内遺跡と考古学 15. レポート提出 16. 総括授業					
教科書					
教科書は使用しない。適宜プリント資料を配布する。参考文献は適宜紹介する。					
成績評価の方法					
授業への取り組み状況、学期末のレポートにより総合的に評価する。					
再試験の有無 無					
受講者へのメッセージ					
考古学に興味のある学生は、学部・専攻・文系理系を問わず歓迎します。					
WEB ページ					
連絡先(Eメールアドレ、オフィスアワー)		中村 豊(埋蔵文化財調査室, 633-7236, yunaka@clin.med.tokushima-u.ac.jp), yunaka@clin.med.tokushima-u.ac.jp, 8時30分～17時15分			
備考					

開講学期	前期	曜日・講時	火9～10	時間割番号	0010609
科目分野	教養科目群・生活と社会[Category of General Education Subjects・Living and Society]				
授業題目名	社会学のパースペクティブ[Sociological Perspectives]				
担当教員	矢部 拓也 [Takuya Yabe]				
単位数	2	対象学生・年次			
平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『教養科目・社会科学分野・社会学 / 社会学のパースペクティブ』					
授業の目的					
私たちが取り巻く「社会」とは、どのように成立しているのか? <社会的なもの>と<個人的なもの>とはどのような関係にあるのか? 私たちの日常生活とマクロな社会の構造や変容とはどのような関連をもつのか? 本講義では、社会学の基礎的な概念や理論を用いて、各々が日常的に経験している「社会」を理解する視座である「社会学的想像力」を獲得することを目指す。					
授業の概要					
イギリスの社会学者アンソニー・ギデンズが、社会学の入門書として書いた「社会学:改訂第3版」をテキストとする。毎回一つのテーマを設定して、それに関する社会学の用語や考え方を用いて問題点を論じる。ギデンズは、アメリカ中心の社会学を英国流に書き換えながら論じている。我々は、これを日本での自分たちの生活をもとに書き換える作業をすることで、ギデンズが見逃している視点や、欧米と共通する視点を議論してゆく。また、日本の今日的な話題も加えながら授業を進めて行く。					
キーワード					
都市社会学, 現代社会, 格差, 社会階層, 不平等, フリーター, 下位文化, オタク, まちづくり					
関連科目					
『都市の人間関係[Urban Personal Networks]』(0.5)					
到達目標					
自分たちの身近な生活世界と「社会」とのつながりを語れるような「社会学的想像力」を身につける					
授業の計画					
1. 授業計画					
2. ワークショップ「ワニの川」社会の多様性					
3. 社会学の理論その1(1章, 21章)					
4. 社会学の理論その2(1章, 21章)					
5. ジェンダー論(5章) 負け犬の遠吠え					
6. 【フリーター論1】「フリーター漂流」ビデオ					
7. 【フリーター論2】VTRへのコメント, 討論					
8. 【フリーター論3】「ワーキングプア」ビデオ					
9. 【フリーター論4】ゲストスピーカー その1					
10. 【フリーター論5】「ワーキングプアⅢ 解決への道」ビデオ					
11. 【フリーター論6】ゲストスピーカー その2					
12. 社会成層と階級構造(10章)					
13. 『趣都の誕生:萌える都市アキハバラ(森川嘉一郎, 2003, 幻冬舎)』					
14. 川を活かしたまちづくり, アドプト, 吉野川フェスティバル					
15. 都市と現代アーバンイズム論(17章)					
16. 総括授業					
教科書					
社会学/アンソニー・ギデンズ:而立書房, 2004, ISBN:4880593222					
成績評価の方法					
期末レポート80%, 出席20%. 授業の進め方も含めて, 初回の授業で詳しく説明するので, 必ず出席すること.					
再試験の有無					
無					
受講者へのメッセージ					
単に座って講義を聴くのではなく, これまでの自分の身の回りの経験を元に自分なりの社会を語れるようになってもらいたいと考えている. 社会に対するいろいろな疑問や不満を持っている人の参加を期待する. .					
WEB ページ					
連絡先 (Eメールアドレス, オフィスアワー)					
矢部 拓也, yabe@ias.tokushima-u.ac.jp					
備考					

開講学期	前期	曜日・講時	水3～4	時間割番号	0010730
科目分野	教養科目群・自然と技術[Category of General Education Subjects・Science and Technology]				
授業題目名	教養としての統計[Statistics: Foundation for Scientific Research]				
担当教員	川野 卓二 [Takuji Kawano]				
単位数	2	対象学生・年次			
平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『教養としての統計』					
授業の目的					
<p>統計学は、社会調査から始まり、とくに生物学の研究の中で理論化が進み、昔より現在に至るまで、自然科学のみならず、社会科学、人文科学などの諸科学分野において重大な役割を分担してきた。近年は、大量生産技術の進展にともなって、品質管理などに、さらに、コンピュータの発展にあいまって、理工学だけでなく、生産、政策や行動などの政治、経済、心理や健康科学関連の疫学などにかかわる実践的施策を行う際にも必要な学問となってきており、その基礎概念を教養として学ぶことはこれからの学生生活にとって有益である。</p>					
授業の概要					
<p>上の記述からも分かるように統計の知識が必要とされる領域は多岐にわたっており、将来、何らかの調査、観察、実験などによって収集されたデータをもとに身の回りの現象を理解しようとする際には有用な道具となるはずである。そこで本講義では、微分・積分を使った難しい議論はできるだけ避け、代数学的な説明を中心にして統計学の基礎的事項について文系の学生にも理解しやすいように解説する。また、具体的な例題演習問題を解くことで社会現象を統計の目で眺めるための基本的な手法を身につけることを目的とする。授業では、Excelを用いた演習も行う。</p>					
キーワード					
データ分析、記述統計・推測統計、確率的判断					
到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 記述統計と推測統計の区別を理解し、統計的な解釈・判断に利用することが出来る。 2. データの特徴や分析の目的に合った統計分析の手法を選択することが出来る。 3. 正確な計算を行って分析し、確率分布を利用して、その結果を正しく解釈することが出来る。 					
授業の計画					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 統計的調査:統計とは何だろう 2. 収集された標本の記述, 表とグラフ 3. データのまとめ方:代表値, ばらつきの尺度 4. データのまとめ方:2変数の関係, 相関 5. データのまとめ方:2変数の関係, クロス表 					

6.	データの変換と分布の形状
7.	標本から母集団へ:記述統計から推測統計へ
8.	標本から母集団へ:推測と検定
9.	適切な検定の選択
10.	2標本間の比較
11.	統計的検定の応用:差の検定
12.	統計的検定の応用:関係の検定
13.	統計的検定の問題点と留意点
14.	統計との日常的な関わり方
15.	全体のまとめ
16.	期末試験
教科書	
本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本 / 吉田寿夫: 北大路書房	
参考書	
新・涙なしの統計学 / D. ロウントリー:新世社 その他, 適宜紹介する.	
成績評価の方法	
講義中の課題(30%)と期末試験(70%)との合計点により最終評価を行う。	
再試験の有無	
無	
受講者へのメッセージ	
※ 講義には, $\sqrt{\quad}$ 演算可能な電卓(ノートパソコンでも可)を持参すること. 質問等は, メールでも受け付けています. なお, この授業の一部は一般市民にも公開されます.	
WEB ページ	
連絡先 (Eメールアドレス, オフィスアワー)	川野 卓二(088-656-7282, kawano@cue.tokushima-u.ac.jp) 月曜日 12時10分~12時40分 場所:川野研究室(6号館2階)
備考	

1～6回目までを公開授業としています。

講座番号7007

開講学期	前期	曜日・講時	木3～4	時間割番号	0010512
科目分野	教養科目群・人間と生命[Category of General Education Subjects・Humanity and Life]				
授業題目名	自己発見の心理学[Psychology for Self-Discovery]				
担当教員	香川 順子 [Junko Kagawa]				
単位数	2	対象学生・年次			
平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『教養科目・社会科学分野・心理学 / 自己発見の心理学』					
授業の目的 他者との交流を通して、自分について根本的なところから見直し、今後自分がどうあるべきかを分析していきます。生き生きと大学生活を送るために必要な知識とスキルを身につけると共に、自他肯定的態度、自己実現的な態度を促進させることがこの授業での目的です。					
授業の概要 人との交流を通して自己や他者を理解していくための授業です。授業では、心理テストやワークショップなど様々なワークをしながら自分について考えていきます。また、自分を理解するための理論(枠組み)を学習することで、授業後も継続して自己理解ができるようになることを重視しています。この講義を通して、心理学の理論を実践へと結びつけて考えていきます。					
キーワード 自己理解、自己実現、自己分析、交流分析、コミュニケーション					
到達目標 1. 自己理解に関する知識とスキルを身につけ、実践できるようになる。 2. 自他肯定的態度、自己実現的な態度を身につける。 3. 自分の経験について、心理学の理論をもとに説明ができる。					
授業の計画 1. 導入(授業参加の留意点、自己発見の心理学とは?) 2. 人との出会いと自分との関わり 3. 交流分析による自己分析Ⅰ(心理テスト・理論の解説) 4. 交流分析による自己分析Ⅱ(自己分析) 5. 短所の見方から自分について考える 6. 過去の自分をふりかえる 7. 将来の人生に望むものを考える 8. 天職を見つけるためのワークショップ 9. 前半のふりかえり(中間レポート) 10. コミュニケーション場面での自己分析Ⅰ(交流の構えの分析) 11. コミュニケーション場面での自己分析Ⅱ(自己主張の仕方) 12. コミュニケーション場面での自己分析Ⅲ(とらわれに気づく) 13. コミュニケーション場面での自己分析Ⅳ(より良い交流の仕方) 14. 幸福感と人間関係 15. まとめ(後半・全体のふりかえり) 16. 総括授業					
教科書					
参考書 芦原睦著 自分が分かる心理テストPART1(1992)、PART2(1995) 講談社					
成績評価の方法 日々の授業における課題(20%)、中間レポート(40%)、期末レポート(40%)を基に総合的に評価を行います。					
再試験の有無 無					
受講者へのメッセージ 意欲的に授業へ参加すること、個人ワーク、グループ活動への積極的な参加を期待します。					
WEB ページ					
連絡先 (Eメールアドレス、オフィスアワー)		香川順子(6-206、088-656-7283、kagawa@cue.tokushima-u.ac.jp)、kagawa@cue.tokushima-u.ac.jp、水・木曜日 12:10～12:40			
備考					

開講学期	前期	曜日・講時	木3～4	時間割番号	0010713
科目分野	教養科目群・自然と技術[Category of General Education Subjects・Science and Technology]				
授業題目名	数理の世界[World of Mathematics]				
担当教員	桑原 類史 [Ruishi Kuwabara]				
単位数	2	対象学生・年次			
平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『教養科目・自然科学分野・数学 / 数理の世界』					
授業の目的					
<p>高校までの数学では、「与えられた問題に公式を当てはめて答えを出す」ことの繰り返しだったかも知れませんが、「数学する」ことの本質は、素朴な問題やパズルを解いてゆく過程の中に見ることができます。この講義では、誰にも分かる素朴な問題を取り上げ、それを考察する中から数学的なアイデアが育ってゆく様子を実感することを目的とします。全ての学問研究のルーツはギリシャ時代の数学(幾何学)にさかのぼることができます。このように「数学する」ことの本質を知るとは人間社会の文化、科学、技術を支える人間の知的活動を体感することにつながるものと言えます。それによって豊かな人間性を養うことが本授業の目的です。</p>					
授業の概要					
<p>第1部では、地図にかかわる問題を出発点として「グラフ」のもつ興味深い性質について考察する。第2部では、作図問題を取り上げ、数と図形の「意外な」関係をさぐる。さらに、高校数学の内容の拡がりについて考える。</p>					
キーワード					
グラフ, 図形, 作図					
到達目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 数学的概念や理論が作り出されていく過程を学び、「数学する」ことを実感する。 2. 自分の頭で論理的に考え、さらに、自分の考えを的確に表現(説明)することができる能力を高める。 					
授業の計画					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 導入(講義の概要の説明) 2. 第1部: 点と線の幾何学-導入 3. 5人の王子の問題, 5つの城の問題, グラフ 4. 平面グラフのオイラーの公式 5. 王子の問題, 城の問題の解決 6. 曲面上のグラフ 7. 地図の塗り分け(四色問題) 8. ケンプの「証明」, その後の顛末 9. 彩色問題の周辺-美術館定理 10. 第2部: 作図と数 -導入 11. 定規とコンパスによる作図(基本的な作図) 12. 数の演算と作図 13. 四則演算で閉じた数の集合 14. 作図と代数方程式, 作図可能な数 15. 三大作図問題の不可能性の証明 16. 総括授業 					
教科書					
参考書					
教科書・参考書に関する補足情報					
教科書は指定せず、板書、スライドあるいはプリントによって講義します。また、参考書などを授業中に適宜紹介します。					
成績評価の方法					
授業中の小テストなど授業への取り組み状況(75%)および期末レポート(25%)をもとに総合的に判断します。					
再試験の有無					
無し					
受講者へのメッセージ					
「すぐに役に立つ数学」の講義ではありません。授業中、集中して根気良く考える姿勢で受講して下さい。					
WEB ページ					
連絡先 (Eメールアドレス、オフィスアワー)		桑原類史(総合科学部1号館南棟2階 2S17), kuwabara@ias.tokushima-u.ac.jp, 金曜日:15:00～17:00			
備考					

開講学期	前期	曜日・講時	木5～6	時間割番号	0010623
科目分野	教養科目群・生活と社会[Category of General Education Subjects・Living and Society]				
授業題目名	ボランティア論[Volunteer Activities]				
担当教員	樫田 美雄 [Yoshio Kashida]				
単位数	2	対象学生・年次			
平成16年度以前(医保は17年度以前)の授業科目:『教養科目・総合分野・総合科目 / ボランティア論』					
授業の目的					
行うに値することは、語るにも値することである、はずである。さまざまなボランティアの可能性を紹介しつつ、主としてそれを社会科学的に論じよう。					
授業の概要					
具体的には、ボランティアの組織運営に関する問題や、地方政府との関係などが検討されることになる。なお、授業の内容理解の促進を期すために毎週コメントシートを書いてもらう。出席票を兼ねているので、出し忘れないようにして欲しい。					
キーワード					
社会福祉協議会、マッチング、サービス・ラーニング、ワークキャンプ、専門化社会、現代社会、労働のポートフォリオ					
関連／科目					
『ボランティア実践[Volunteer and society]』(0.7)					
到達目標					
21世紀において、大学教育において、なぜボランティアやNPO(非営利組織)について考えたり、実践したりすることが重要なことなのか、理解する。ボランティア・NPOの領域と、市場や政府の領域がどのように関係しているのか理解する。消費社会化やグローバル化とボランティアの関係について理解する。ボランティア教育のあるべき形について自分の意見をもてるようになる。					
授業の計画					
1. 初回はオリエンテーションを兼ねたボランティア論(必ず出席せよ)					
2. 国際協力ボランティアのNICEからゲストを迎えてお話し=マレーシアでのボランティア=を聞く(松重氏)					
3. ボランティア依存症について					
4. 1)「ボランティアを社会科学的に考える意義」					
5. 2)「ボランティア活動と現代社会」					
6. 3)「ボランティア活動とサービスラーニング」					
7. 4)「ボランティア・コーディネーター」と「社会福祉協議会」					
8. 5)「徳島のボランティア」の現在・過去・未来					
9. 6) ボランティアと日本社会					
10. 7)「労働の変容」とボランティア(IRC 字幕入力ボランティア)					
11. 8)「認知症とボランティア」(田野道子氏)					
12. 9)「ふたたび国際協力ボランティアのNICEから(=予定=)」					
13. 10)『傾聴ボランティア』の理論と実際(前半)					
14. 11)『傾聴ボランティア』の理論と実際(後半)					
15. 12) 総括討論(テスト返却と解説)					
16. 13)「労働の変容」とボランティア(IRC 字幕入力ボランティアの実習)補講として。					
教科書					
教科書 なし。					
参考書 巡静一&早瀬昇『基礎から学ぶ ボランティアの理論と実際』中央法規出版 1997, 2400円。					
内海成治ほか編『ボランティア学を学ぶ人のために』世界思想社 1999, 2,200円。					
立木茂雄編著『ボランティアと市民社会』晃洋書房, 1997, 1900円。					
参考書					
基礎から学ぶボランティアの理論と実際／巡・早瀬:中央法規出版, 1997, ISBN:978-4805815298					
ボランティア学を学ぶ人のために／内海成治ほか編:世界思想社, 1999					
古瀬敏『ユニバーサルデザインへの挑戦』ネオ書房, 2100円。日経デザイン編『ユニバーサルデザインの教科書』日経BP社, 2800円。黒須正明編『ユーザビリティテスト』共立出版, 3300円。C&C 振興財団編, アクセシビリティ研究会著『情報アクセシビリティとユニバーサルデザイン』株式会社アスキー, 2800円。					
教科書・参考書に関する補足情報					
大学の学習で、図書から学ぶことは大変に重要である。配付資料を読み、配付資料に記載のある文献を読んで知識を深めて学習すること。なお、配付資料の印刷ボランティアには、樫田研究室の資料の活用に関して特権を与えるので、奮って応募して欲しい。					
成績評価の方法					
授業への取り組み状況、日常の態度、テストの成績を合算して評価する。コメントシートへの記載内容が、授業に係わることを最低で1行以上、という要件を満たしていない場合には、授業への取り組み評点で低く扱われるので気をつけること。					
再試験の有無					
無					

受講者へのメッセージ

医療ボランティア等の実例を用いながら、学生参加型の講義を行う。出欠確認は毎回行う。とりわけ、初回のオリエンテーションは重要なので、欠席しないようにせよ。欠席者には理由を問う。なお、本講義の前半7回は、大学開放実践センター5名への公開授業ともなっている。急な休講の場合の補講は、8月2日14:35～16:05、を予定。このコマに正規の授業がある場合は、事前確認の上レポート等に対応するので、申し出よ。

WEB ページ	http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/social/
連絡先(Eメールアドレ ス、 オフィスア ワー)	榎田美雄(工学部キャンパス内、SVBL棟3階エレベーター出て右から2番目の榎田第二研究室、088-656-9512、kashida@ias.tokushima-u.ac.jp)、火曜日 14:00～15:00at 工学部キャンパス内 SVBL棟3階・プロジェクト研究室1(榎田第二研究室)
備考	